

授業科目名 <英訳>		環境・感染論 Environment and Infection		担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア研究所 教授 西瀨 光昭					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2016・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
教官による講義および受講生による発表とそれに基づくグループディスカッションを通して、ヒトの感染症の発生・伝播に影響を与える要因の中で、特に環境中の種々の要因あるいはそれらの相互作用およびその他の要因との関連性を理解する。											
<b>[到達目標]</b>											
感染症を生態学的視点から捉えるために、病原体の生息する自然環境、ヒトの作り出す人為的環境、感染を受けるヒトの抵抗性などの様々な要因を総合的に解析するアプローチを習得する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
基本的に以下のスケジュールに従って授業を実施する。第1回～第9回は、講義（西瀨）、第10回～第13回は、セミナー形式のレポート報告会、第14回は、(検疫所見学で検疫所の都合に合わせて日時が変更になる見込みであり、オープン参加者（受講していない大学院生）も定員内なら受け付ける。											
第1回 10月 4日 感染症学習に必要な背景要因（講義） 第2回 10月 11日 新興感染症：先進国で最も問題になっている感染症(講義) 第3回 10月 18日 発展途上国における開発と感染症の関係:インドネシア（講義） 第4回 10月25日 水と健康（講義） 第5回 11月 1日 世界規模で伝播する重要な感染症（講義） 第6回 11月 8日 最近話題になっている感染症（講義） 第7回 11月15日 感染症の分子疫学的解析（講義） 第8回 11月 22日 国内と国外の感染症（講義） 第9回 11月 29日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析I（ゼミ） 第10回 12月 6日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析II（ゼミ） 第11回 12月13日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析III（ゼミ） 第12回 12月20日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析IV（ゼミ） 第13回 1月10日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析V（ゼミ） 第14回 1月17日 感染症の伝播の防止(検疫所見学)											
<b>[履修要件]</b>											
● 配布資料とパワーポイントのスライドは、日本語と英語を併記する。 ● グローバル生存学大学院（リーディング大学院）の科目に選定される、受講者の半数以上の母国語が日本語以外の場合など、授業で使用する言語は原則として英語にしたほうが良い場合、受講者の合意を得て、そのようにする。状況を鑑みて重要な部分は日本語と両方で説明する。 ● 不可抗力によって授業を開催できない場合休講にするが、希望があれば別途集中講義などで補講をすることは可能である。 ● 次年度以後の授業の改良の参考にするために、第13項目が完了した時点で、受講生に本授業に関するコメントを求める。 ● 検疫所の見学（第14項目）には、ほとんど終日のスケジュールが必要である（京都→検疫所→京都の移動、検疫所での見学には午後の就業時間のほとんどが必要）ため、実際には2月中旬か下旬に実施される可能性が強い。1年目は関西空港検疫所、次年度は神戸検疫所次は関西空港検疫所											
----- 環境・感染論(2)へ続く ↓↓↓ -----											

## 環境・感染論(2)

というように、1年おきに関西の2つの主要検疫所を順次訪問する。両検疫所の見学が可能になるように、しかるべき大学院または研究所に2年以上在籍する大学院生・教員に対してオープン参加を認める。神戸検疫所では、輸入食品の安全性、関西空港検疫所では、主として海外旅行者が持ち込む輸入感染症の防止策について学ぶ。

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

- 下記の対象とする項目について、それらの内容を総合的に評価して判定する。
- 前半は教官による講義なので、成績評価は出席状況（配分40%）、後半は受講生によるレポート発表15分(成績評価配分40%)とそれに基づくグループディスカッション15分(成績評価配分20%)における知的理解度、積極性、観察力、洞察力、意思表示の能力をもとに判定する。
- 検疫所見学への参加・不参加は、成績提出時期に間に合わないので、オプション扱いとし、評価の対象に含めない。
- レポート発表のない受講生は未受験扱いとし、成績は無しとする。

### [教科書]

使用しない

教科書は使用しない。講義の内容の理解を補助する資料として、講義の骨子をまとめたプリント（日本語と英語併記）および学術論文等の写しを必要に応じて配布する。

### [参考書等]

#### (参考書)

Marc Gentilini. 1993. Translated into Jap. by T. Shimizu et al. 『Médecine Tropicale』 (Nakayama-Shoten) (原著はフランス語で記載された。その日本語翻訳版が「熱帯医学」)

Ed. R. L. Guerrant et al. 『Tropical Infectious Diseases 2nd ed.』 (Churchill Livingstone Elsevier) (この分野の専門書では、かなり詳細で専門的である。)

### [授業外学習（予習・復習）等]

予習・復習は必ずしも必要ない。講義内容に関連する情報を学びたいければ、講師（西淵）が適当な情報を提供する。

### (その他（オフィスアワー等）)

連絡先

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46  
京都大学東南アジア研究所 東棟2階E205号室  
西淵光昭

Tel. オフィス (075) 753-7367, ラボ (075) 753-7319, (075) 761-2700

Fax. (075) 753-7319, (075) 761-2701

e-mail. [nisibuti@cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:nisibuti@cseas.kyoto-u.ac.jp)

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。